

### (3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないこと。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けること。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下とすること。

NITS・教職大学院・教 育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 新潟大学教育実践学研究所 後援：新潟市教育委員会、新潟県教育委員会
	事業名：【NITS・新潟大学教職大学院コラボ研修】にいがた教育フォーラム 2025
	開催日時：令和 7 年 8 月 2 日 13 時～17 時 開催場所：新潟大学（新潟県新潟市西区五十嵐 2 の町 8050） 参加人数（総数）と参加者の属性：（122 人）教員：74 名、行政関係：5 名、他大学：3 名、学生・院生：40 名、

#### 目的：

本フォーラムは、教員の質保証及び学び続ける教員の育成を目的として、教職員の主体性を重視した教員研修の場を提供する。

そのために、教職大学院教員の専門性を生かしたワークショップと教職大学院生が自身の問題意識や学校課題を基に探究的に取り組んだ実践の成果や課題を報告し参加者と学びあうラウンドテーブルで構成する。ワークショップでは、外部講師から情報提供や話題提供を行うとともに、参加型のワークショップを行い、参加した教員が学びあい新たな気付きを得られるようにする。また、ラウンドテーブルでは、本学教職大学院院生の取り組みの成果と課題を報告し、同じ課題意識を持つ県内外の教員や関係者との意見交流を通して学びあう集団の輪を広げる。

**内容：**※全体発表の内容をテープ起こしするなど、具体的に記載すること。

#### (1) ワークショップ

「新しい時代の教育実践の構築に向けて」をテーマにして、第 1 部では教職大学院教員が 7 つのワークショップを開催した。生徒指導、中等教育学校、AI 活用、特別支援教育、算数・数学、体育、社会科のそれぞれについて、講師を招き、参加者の声をもらいながら参加型の運営を行った。大学院教員の話に対して、学校現場や教育委員会の視点より多角的・多面的な意見交換ができた。

#### (2) ラウンドテーブル

第 2 部では、大学院生の学びの交流としてラウンドテーブルを開催した。11 のブースを開き、これまでの学びや今後の方向性について、県内外の学校教員や大学関係者と意見交流を行った。

**成果：**※参加者の声など客観的な情報・データとともに記載すること。

令和 6 年度は、参加者 122 名であった。参加者アンケート回答者（79 名）のうち、初参加が 46.8%、2 回目以上の参加が 50.9%（2 回目 15.8%、3 回目 14.3%、4 回目以上 20.8%）と継続的に学び続ける研修機会として機能していることが確認されている。昨年度のアンケートと比べて、特に「3 回目の参加」「4 回目の参加」の割合が多くなっており、リピーターが増えている。フォーラム全体に対して、参加者アンケートでは、「とても良かった」69.7%、「よかた」27.6%という満足度であった。昨年度と比べて「とてもよかった」の割合が増えている。

教員のワークショップへの記述からは、「現場で感じる課題について、具体的な対応を学ぶことができ、勉強になった。またお聞きしたい。（生徒指導）」「何から何まで目新しく、大変参考になりました。（中等教育学校）」「教職員の指導力の向上に AI が果たす可能性を感じました。勉強させていただきました。（AI 活用）」「進学や就職といった様々な段階における現状や課題に関する理解を深めることができました。また、切れ目のない支援を行うための連携やアプローチの重要性と難しさを実感しました。貴重なお話をお聞かせいただき、ありがとうございました。（特別支援教育）」「算数と数学それぞれで特性がある部分と、共通して大事にしていかなければいけない部分を考えることができました。発表者の先生方の内容がとても分かりやすかったです。（算数・数学）」「とても勉強になりました！自身の授業を振り返って、子どもの考えが深まっていかなかった原因や体育におけるメタ認知の重要性を学ぶことができました。（体育）」「子どもの学び方も社会科授業のあり方も大変学びが多かったです。（社会科）」といった意見を多数いただいた。

院生のラウンドテーブルへの記述には、「社会科の実践は自分にとっては新鮮だった。得た知識を日常生活でどのように活かしていけるのか、それを子どもがどのような認識できるのか、どう単元をつくっていくかなど、とても考えさせられる内容であった。」「よく整理され、主張の伝わる発表だった。」「難しい現場での研究で、素晴らしいと思いました。」「実践の熱量が伝わってきました」といった、自身の教育実践に参考になったという意見を多数いただいた。

## 「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

- (1) 研修観の転換を図る研修：講師の話聞くにあたって、参加者が自ら考える問を示すことで、自分に引き寄せて考えられる。
- (2) 子どもの学びと教師の学びの相似形：参加した教員自身が、自分の意見を述べともに交流することでより深く理解し、満足感を得られている。このことは、子供の学習にとっても子供の参画や探究が重要であることへの理解と授業改善につながる。
- (3) 主体的で探究的な取り組みと、学びの共有：教職大学院の現職院生が、自身の学校での取り組みを整理して報告することで、参加者は自身の学校の取り組みを投影して議論に参加できる。

**アイデアや工夫したこと**：※実際の様子により分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明すること。

(1) 教員・院生の強み（高い専門性、現場での実践で得られた実践データと実感）を生かす  
具体的な事例・データを前提におきながら、理論・論理とを整合させることで、参加者が議論しやすい場を設定した。本学教職大学院の様々な専門性が参加者の多様なニーズに対応したと考える。

(2) 参加型の研修への転換  
ワークショップ、ラウンドテーブルのどちらも、参加された方々は、積極的に発言をしていた。フォーラムの趣旨のとおり、発表者および参加者は新たな学びを求め議論したい方々が参加しており（自由参加・無料）、今日的な課題設定が、参加者のニーズと整合したことによると考える。

(3) 開催方法の工夫  
Zoom での開催によって、参加者の状況に応じて参加できた。参加者の満足度が高いことから、現在の教育課題について話題提供及び今後の指導面に具体的な提言や意見交換がなされたと判断できる。リピーターが多いことから、このフォーラムの提案性、期待感がうかがわれる。

新潟大学 教職大学院 参加費 FREE!

にいがた教育フォーラム 2025

テーマ「新しい時代の教育実践の構築に向けて」  
新しい時代の教育実践を築くための学びの場を創出する

後援 新潟県教育委員会 新潟市教育委員会  
令和7年度NITS・教職大学院・教育委員会等コラボ研修プログラム支援事業

1 日時 令和7年8月2日(土)13:00~16:45(入室 12:45~)

2 開催場所

【開会】13:00~13:15 ①研究科長挨拶 ②本フォーラムの趣旨の説明

【ワークショップ】13:15~14:45 詳細2票  
・本学教員主催のワークショップが中心で選定して参加します。

【ラウンドテーブル】15:00~16:35 詳細3票  
・本学教員または教員による研究紹介や質疑応答をもとに自由に話し合います。

【閉会】16:35~16:45 ③研究科長挨拶